

長野県東御市都市整備部上下水道課

取組概要

人口減少に伴い下水道施設の統廃合を進め、下水道施設の効率的な維持管理と経営基盤の安定化を図った。

◆**総事業費** 362,928千円（平成29年度から令和6年度まで）

◆背景

- 下水道の施設整備から一定の期間が経過し、施設の老朽化により今後、施設の更新需要の増大が見込まれる。
- 人口減少や少子高齢化等の社会情勢に伴い、施設利用率の減少が見込まれる。
- これらの課題を解決するため、下水道施設の統廃合をすることで、更新需要費の抑制と施設の効率的な運営により、維持管理費の削減を図る。

◆具体的内容

- 「新たな下水処理計画」に基づき、東部地区は農業集落排水7地区とコミュニティプラント1地区を公共下水道へ編入・接続する計画とした（9施設→1施設）。
- 北御牧地区は大型合併浄化槽2地区を特定環境保全公共下水道へ、コミュニティプラント2地区は農業集落排水（下八重原処理場）へ編入・接続することを予定している（8施設→4施設）。
- 全体計画としては、17施設を5施設へ統廃合する予定。

◆効果

- 平成30年度から統廃合事業を開始し、令和6年度末で8つの処理場の編入・接続が完了し、維持管理費が削減された。（平成31～令和6年度で▲約61,900千円）

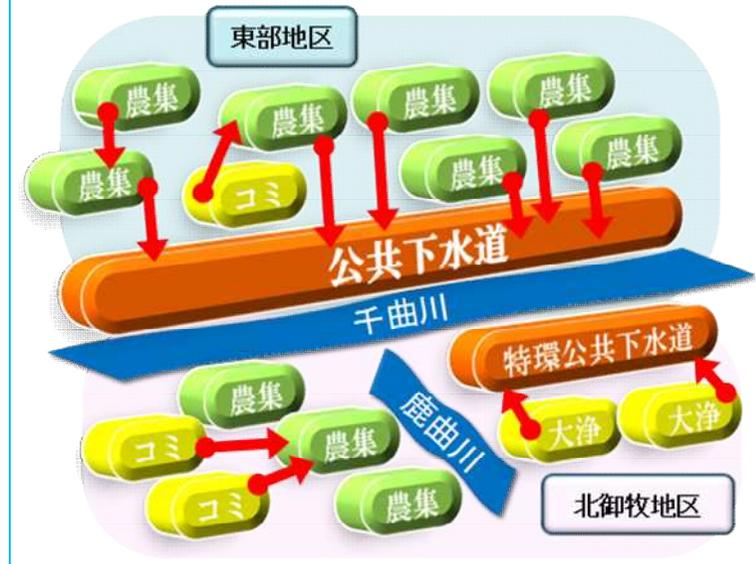
取組のポイント

- 現在、浄化槽処理の東部湯の丸SAをR5から接続工事を実施し、R9までに公共下水道へ接続予定。
- 下水道施設の統廃合事業の推進と合わせて、ストックマネジメント計画に基づき、受け皿となる東部浄化センターを計画的に改築・更新を行うことにより、安定した操業とランニングコストの縮減を図っている。
- 下水道施設の統廃合事業については、関係区への協議、説明を丁寧に行い、合意形成を図りながら、今後も推進して行きます。

公営企業情報

- 行政区域内人口 28,844人（令和7年3月31日時点）
- 行政区域内面積 112.37Km²（令和7年3月31日時点）
- 処理区域内人口 26,991人（令和5年度決算）

統廃合事業イメージ図



取組のスケジュール

- 平成28年度に計画の認可、H30:別府、R元:滋野、R2:和南部と金井、R3:田沢、R4:新屋、R5:東上田、R6:寺坂処理場の接続工事が完了。

今後の展望

- 北御牧地区は令和7年度に全体計画・変更認可を予定し、令和12年度に全ての統廃合が完了予定。
- 今後は、大型合併浄化槽の常満と玉の井、コミュニティプラントの白樺池と山崎を接続予定。